筑波のかえる

高次脳機能障害友の会・いばらき

２０１９年 ～～ 夏 号 ～～ 第４３号

高次脳機能障害友の会・いばらき
〒３００－２６２２
茨城県つくば市要１１８７－２９９
筑波記念病院リハビリテーション部内
TEL　０８０－８４３０－３３６５
FAX　０２９－８７７－４６８８
E-mail　kojinouibaraki@yahoo.co.jp
H.P　http://nosonshoibaraki.sunnyday.jp/

≪４３号内容一覧≫

はじめに（滝沢会長）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
役員会から　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
令和元年度総会を振り返って　・・・・・・・・・・・・・・３
平成３０年度バス旅行　・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
研修会・事例検討会活動報告　・・・・・・・・・・・・・・７
高次脳機能障害支援協力病院（モデル事業）紹介　・・８
県北の広場　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
県南の広場　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
神栖の広場　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
がんばってる人⑧「飛田　更紗さん」　・・・・・・・１４
施設訪問⑧「もみやまリハビリテーションセンター」・・１５
施設訪問⑨「取手障害者福祉センターあけぼの」　・１６
芝本　礼さんのブログから「ふたりの息子」　・・・１７
おしらせ・編集後記　・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

表紙の写真は、３月のバス旅行の時に、笠間で絵付けをした当事者の皆さんの作品です。

浅野こず恵さん、池田清さん、石井翼さん、小川伸一さん、黒瀬良子さん、御所脇充さん、滝沢勇太さん、飛田更紗さん、ひまわりさん、以上９名の力作です。

はじめに

時代は平成から令和へと移り、脳損傷友の会・いばらきも、先日開かれた総会の承認を得て、名称を「高次脳機能障害友の会・いばらき」へと改名されました。

平成１６年に設立され、多くの望みや願いを託して付けられた名称が変わるということに会員の中には寂しく想う方も、少なからずおられるのではないでしょうか。しかしながら、「高次脳機能障害」という言葉が注目を集め始めた今、高次脳機能障害に変更をすることでより分かりやすく多くの方にアピールできると思っています。名称は変わりますが今まで通り、当事者と家族、そして支援者を繋ぐ友の会として、活動を続けていきたいと思います。

最近家族会交流室には「軽度の高次脳機能障害」と診断される方々が、参加される機会が増えてきました。麻痺もなく、お仕事もされていて、はた目には本当に障がいをお持ちだとは思えない方々です。しかしながら、ご自分の家族にさえその「大変さ」はなかなか伝わらず、職場にも理解されずに辛い思いをされてきたのです。私たちが悩んだ時、他の家族の方に話を聞いて頂くとほっとするように、当事者の方にも、ほっとできるようなピュアカウンセリングの場が出来ないかと思いました。そこで、高次脳機能障害支援センターのご協力を頂いて県南集会において昨年 11 月のクリスマス会と、今年１月に「笑顔で楽しく過ごす秘訣！」と題して当事者の集いを開くことができました。

そして、先月の５月には、何処とも繋がっていない、でも誰かに「大変さ」を解って欲しいと、繋がりを求めていらっしゃる方の声も受けて、支援センターが中心となって「当事者会」が開催されました。大変好評だったそうで、今後も 2～3 か月の間隔で開きたいとのことでした。このような活動が各地域に広がると良いと思います。

高次脳機能障害に限らず、あらゆる分野での支援は、人と人との繋がりによって形になっていくものと思います。私たちも繋がりを求めて声を挙げ、また困っている方には手を差し伸べられるよう、活動していきたいと思います。

会長　滝沢　静江

役員会から

令和元年度　高次脳機能障害友の会・いばらき　事業予

項目 月	会　　員	役　員　会	そ　の　他
6月	14日　家族会交流室 23日　県北集会 26日　神栖集会	19日　役員会	2日　令和元年度総会 15日　会報誌発行
7月	12日　家族会交流室 14日　県南集会 18日　県北家族の集い 24日　神栖集会		
8月	4日　県北集会 9日　家族会交流室 28日　神栖集会	21日　役員会	
9月	13日　家族会交流室 15日　県南集会 25日　神栖集会 26日　県北家族の集い		15日　会報誌発行 16日　茨城県リハビリ講習会 （未定）県への要望書提出 〃　福祉課担当部長訪問

役　員　会　報　告

平成31年 3月20日　議事（1）バス旅行の感想と今後の課題
（2）各行事の報告（事例検討会等）
（3）総会について

平成31年 4月17日　議事（1）総会についての確認
（2）今年度の事業ついて
（3）神栖集会・交流室等の報告
（4）今年度の事業について

家　族　会　交　流　室　か　ら　の　報　告

平成31年　4月12日　相談者3組　会員11名
県障害福祉課　齋藤副参事・稲川主事・中嶋氏
支援センター　小原課長

令和元年　5月10日　相談者2組　会員9名
支援センター　浅野相談員

令和元年度総会を振り返って

日時	令和元年６月２日（日）　午後１時～3 時		
会場	ふれあいの里石岡ひまわりの館　介護研修室		
日程	13:00	総会開始	当事者活動開始
	13:30	みんなでスポーツしよう「卓球バレー」	
	15:30	終了・片付け	

総会･当事者活動

今年度の総会は、例年同様「石岡ひまわりの館」で行われました。年号が「令和」に改元された、記念すべき総会です。当日は、初夏らしい爽やかな日で、何となく会の再スタートを祝福してくれているかのようでした。

出席者数は家族会員 20 名､当事者会員 11 名、賛助会員２名、計 33 名でした。議事もスムーズに進行され、予定した議案は参加された皆さんのご協力で、無事にすべてが承認されました。そして、その場で会の名称が「高次脳機能障害友の会・いばらき」と変わりました。

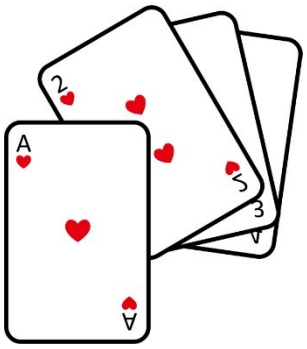
総会と並行して当事者の方々は。レストランで和気あいあいとトランプを楽しみました。昨年までは「ウノ」でしたが、ルールが難しすぎて、やっと慣れてきた頃には時間切れとなってしまったという反省から、トランプに変わったのでした。今年もハプニングの連続でしたが、傍から見ていても本当に楽しそうで、大成功の当事者活動だったと思います。

卓球バレー

総会後は、みんなで「卓球バレー」を楽しみました。「卓球バレー」聞きなれない名前だと思いますが、最近話題のスポーツです。６人制バレーボールをもとに考案されたもので、ネットを挟んで１チーム６人ずつが椅子に座って卓球ボールを転がして競います。

当日は、県障がい者スポーツ指導者協議会会長の及川力先生のご指導を得ながら、初体験の卓球バレーに挑戦しました。最初は遠巻きに見ていた人たちも、徐々にゲームの中に入り、夢中でボールを打つ姿が多くなりました。軌道に乗ってきた頃には終わりとなりましたが、時間を忘れてしまうくらい楽しいひと時でした。

《 当事者活動に参加して 》



６月２日（日）、総会時の当事者活動に参加しました。

今年は当事者さん 10 名でトランプをすることになりました。何のゲームをするか皆さんに挙げてもらい、神経衰弱、ポーカー、大富豪などなど、いろいろと候補は挙がったのですが、誰でもわかるルールのもので、10 人でもプレイできるものはババ抜きしかないということで、ババ抜きに決まりました。

昨年の UNO はルールが難しすぎて、時々説明書を読みながらやっていたのを思い出し、今年はババ抜きでルールも簡単だし、順番さえ決めてしまえばあとは何とかなるだろうと少し気楽に考えていたのですが、やっぱり今回も大波乱でした。時計回りで次の人のカードを引いていたはずが、気が付くと逆になっていたり、捨てたカードの山からうっかり拾ってしまったり、そもそもお互いのカードが丸見えだったり…最後の最後にはジョーカー以外のカードも余ってしまったというとても不思議なババ抜きになりました(笑)。

私はリハビリ職種として致命的なほど集団の運営が苦手で、進行は終始グダグダだったのですが、それを察してか当事者の方同士でお互いに声を掛けて、フォローし合いながら進めていただいて、とても助かりました。周りによく目を配ったり、優しく声を掛けたり、相手の反応をゆっくりと待ったり、小さな失敗を笑って流したり、当事者同士の集団だからこそ、そういった面がみられるのかなと思いました。ババ抜きのゲームは混乱を極めましたが、当事者活動全体としては和やかに終わりました。

また機会がありましたら参加させていただければと思います。ありがとうございました。

東京医科大学茨城医療センター
言語聴覚士　加藤祐子

平成 30 年度バス旅行

平成３１年３月１０日（日）　茨城県作業療法士会　土浦医療圏の地域支援の事業の一環として、バス旅行が行われました。

今回は、企画から行程・支援まですべてお世話になり、私たちは一日ゆったりと楽しく過ごすことができました。参加者は、当事者９名、家族１０名、支援者９名。そして運転手さん２名を合わせ総勢３１名の大人数でした。

10：00 にアール専門学校を出発しましたが、途中小さなハプニングもあり、第一の目的地の笠間陶芸の森公園へは少し遅れての到着になりました。

早速グループに分かれ、絵付けの作業に取り掛かりました。今回は、支援者の方たちも一緒に絵付けができました。素焼きのお皿や茶碗に思い思いに絵を描き、皆童心に帰ったように大騒ぎをしながら楽しむことができました。そのせいか、作品はみなそれぞれに力作ぞろい。後日、友の会の総会時にお披露目、ご自分の作品を持ち帰っていただきました。

食事がすんで自由行動の後は、かすみがうら市の「すずめっこ・森」といういちご農園でいちご狩りです。当事者の方たちも家族と離れて、支援者の方たちと一緒に、自由にたくさんいちご狩りを楽しめました。

今回は初めての参加という方が何人かいて、集合時はちょっと不安そうな一面もありましたが、バスが出発するころにはすでに、あちこちで楽しそうに会話をする声が聞こえました。支援者の皆さんが話し上手聞き上手だったのでしょうか、中には「こんなに沢山おしゃべりしたのは久しぶりで楽しかった」という感想もいただきました。

また、プラスアルファのお楽しみをということで、帰りのバスの中でくじを引き、ささやかなお土産つきとなりました。支援者の方たちには、会員有志の手作りの品物も加えられ、ささやかではありましたが、感謝の気持ちを表わせたのではないかと思います。

今回も３月という一番忙しい時期にもかかわらず、計画を立て、貴重な休日を返上してご支援くださった皆さんに改めて感謝したいと思います。

代表の大野静佳さんより感想をいただきましたので、紹介いたします。本当にありがとうございました。

《 笠間陶芸の丘・すずめっこ森へのバス外出に参加して 》

茨城県作業療法士会　土浦医療圏

今年も、日帰りバス外出へ多くの方々にご参加いただき、大変ありがとうございました。参加した作業療法士(以下 OT)の感想の一部をお伝えさせて下さい。

【全体的な感想：今日のバス旅行はいかがでしたか？ 】

- 当事者の方にとって：サポート体制がある中での楽しいイベントということでリラックスした中で、普段しないことへのチャレンジがしやすかったのではと思います。
- ご家族にとって：普段よりも距離を置いて自分の時間を過ごしたり、一対一の関わりでは見られない当事者の方の姿を見ることができたのではないかと思います。
- OT にとって：半日間の限られた時間ではありますが、ともに過ごす時間を通して、当事者の方やご家族がどのように向き合って生活をされてきたか、またされているのかを感じる機会となりました。病院や施設といった日常の臨床場面と離れた場で、OT として働く上で貴重な体験になりました。
- 社会の中で人と関わったり、好きなことを共有したり、何かにチャレンジしたりと、「当たり前のことを当たり前にできること」を多少なりとも支援することができていたら幸いです。リハビリ専門職として、OT として大きな学びの機会となりました。

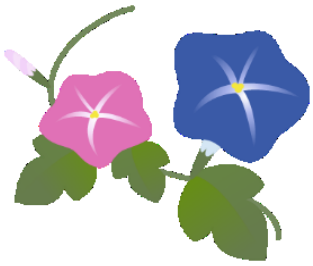
【ペアを組んでの活動(絵付け体験・昼食・いちご狩り・バス移動など)での気づき】

- OT に対して、服のゴミをさりげなくとってくれたり、椅子の上の荷物を移動してくれるなど気遣って下さいました。また、女性の方やご自身よりも身体面の支援が必要な方に対しても色々な場面で気遣われる姿がありました。
- 人と触れ合ったり直接的に関わることや、すぐに反応(結果)が出る活動を好まれるように感じました。身体を動かす活動も良いと思いました。(今後の活動へのヒント)
- 他の参加者の方から教わったいちごの取り方のコツを、さらにご自分で工夫されて他の方に伝達されるなど、集団の中で自然に楽しまれていたと思います。
- 自由時間で、参加者の方同士の会話で、今後の生活について質問された場面があり、少し考えた後に「頑張りたいと思っている」と話されていた姿が印象的でした。
- 色々なことを話してくださいました。ずっと言えなかった思いやストレスなど、「当事者同士だからわかることがある、友の会に入って良かった」と話されていました。
- 初めは緊張したご様子で、ご家族と３人で過ごしていましたが、徐々にご自身から OT と二人で過ごすことにチャレンジされる様子がありました。離れて過ごす時間には、お母様が楽しまれているか気にかけられていました。
- やりたいことを提案して積極的に楽しみつつ、集合時間を気にかけたりと周囲に配慮される様子がありました。

今後も、調理活動やバス外出などご一緒できたら嬉しいです！よろしくお願いします。

大人とこどもの高次脳機能障害を考える会

４月４日午後７時より筑波大学付属病院会議室にて開催されました。
１年前に開催された事例の、その後の経過報告と新たな方向性の確認をしました。特別支援学校を卒業後、自立活動の生活訓練施設で２年間の通所を始めました。通所先では、プレッシャーを与えない環境作りや障害から来るマイナス面を気にしないようにする支援をポイントに指導されているとのことです。本人が各場面での役割をのびのびと活躍する様子を DVD で拝見し、楽しみながらも確実に成長している様子に感心し、安堵しました。ご両親の様子も大分落ち着いていらっしゃるように見受けられました。



参加者は、ご本人に関係する通所施設の職員や支援学校教員、外出支援施設職員、小さい頃から関わる言語聴覚士、ご両親、弟、そして本人の幼なじみの友人という顔ぶれに、高次脳機能障害に関心のある各種専門職、教職員の皆様が加わり２８名の参加でした。

開催にご協力頂きました皆様方に感謝申し上げます。

失語症に関する基礎知識と対応方法について

講師：筑波メディカルセンター病院　中条　朋子　先生
（診療技術部リハビリテーション療法科　言語聴覚士）

３月 15 日（金）、茨城県霞ケ浦環境科学センターにおいて、失語症についての研修会がありました。今までにも失語症の方達とお会いし、ご苦労されている様子はわかっていましたが、実際に症状や対応について、詳しい話を聞いたことがありませんでした。中条先生のお話は、質問形式や体験形式を取り入れて私たちにも分かりやすく説明して下さり、第２部ではグループディスカッションも行いました。

コミュニケーションの障がいはその人の家庭での立場や、社会生活にも多大な影響を及ぼします。聞き手次第でやり取りはいくらでも豊かになるそうです。手法を知れば、もっと失語症の方達の社会性が拡がるかも知れません。前年度に水戸地区で開催された「失語症者向け意思疎通支援養成研修」が、今年度は県南地区で開催されるそうです。案内を同封しましたので、興味がございましたら是非、参加してみてください。（研修の案内については先日お送りしてありますので、そちらをご覧ください。）

高次脳機能障害支援協力病院（モデル事業）紹介

「高次脳機能障害支援協力病院」とは

病院内に高次脳機能障害支援コーディネーターを配置し、地域における関係機関との連携拠点として、高次脳機能障害支援ネットワークの構築を行う事業です。今年度、この協力病院として**《志村大宮病院》と《筑波記念病院》**が県より委託されました。そこで、今号と次号とで、この２つの病院について取り上げたいと思います。

《志村大宮病院》

住所：〒319-2261　常陸大宮市上町３１３
電話：0295-53-1111

お話は、**高次脳機能障害支援コーディネーター**として活躍しておられる山中菜都紀さんからお聞きしました。コーディネーターは、県の高次脳機能障害支援センターとの連携を密にし、主に次の３つの役割を担っています。

①　相談支援

高次脳機能障害に関する様々な困りごとの相談に応じます。当事者や家族に関する相談はもちろん、支援者の方からの相談にも応じています。又、高次脳機能障害の診断や評価をしてほしいという要望があれば、当病院の専門医につなぎます。支援センターからの紹介で相談に見える方もいます。当病院の入院患者さんの家族支援として「はなみずき」という家族会も出来ています。

②　退院後のフォローアップ事業

患者さんは退院してからも様々な問題を抱えることになりますが、それらにも丁寧にかかわることにしています。就労や就職に関する相談はもちろん「社会復帰するために運転の評価をしてほしい」「福祉サービスの利用方法を教えてほしい。」など、現在１４軒のお宅を訪問しながら退院後の支援をしています。

③　研修会の開催

高次脳機能障害に関する研修会を開き、支援者の方々のレベルアップにつなげていきたいと考えています。昨年は２回実施しましたが、今年度は４回の研修会を予定しています。出来れば当事者の方のお話も研修会の中でお聞きできればと考えています。

県北の広場

新しい年度を迎えました。
今年度も 例年通り２つの集会 ①《県北集会》②《県北集会 家族の集い》を計画しています。親しく集いましょう。
また、この会報ページで 集会の様子をお伝えしていきます。

県北集会の２つの集会のご案内

① 《県北集会》
- 当事者、家族、支援者や学生の方々とで レクリエーションや茶話会で楽しく集います。
- 年６回開催
  （４、６、８、１０、１２、２月の日曜日 １３：３０～１５：３０）
- 開催場所は、水戸市社会福祉ボラティア会館など
- 詳しくは、毎回送付される「集会のお知らせ」をご覧下さい。

② 《県北集会 家族の集い》
- 家族や支援者が日常のことをいろいろと話す集まりです。
- 年６回開催
  （５、７、９、１１、１、３月の木曜日 １０：００～１２：００）
- 開催場所は、水戸市社会福祉ボラティア会館
- 日程については、会報の「事業予定」をご覧下さい。

使用済み切手 寄付のご報告

２月の集会で整理した切手は、去る２月２０日、水戸市社会福祉協議会に寄付してきました。
「切手の寄付は、減ってきているので嬉しいです。」と喜んで下さいました。
またコツコツ集めて、できることで社会貢献していきましょう！

支援者紹介

言語聴覚士の学生の時から参加しています。今は医療職ではない仕事をしていますが、継続して参加させていただいています。
集会はとても楽しい時間で、当事者やご家族、支援者仲間との絆を深める事ができるのが継続して参加している理由です。
これからも楽しい場所で、自分にできる事をしっかりと行なっていこうと思います。（小貫雄太）

平成３１年度　第１回県北集会　　平成３１年４月２１日（日）

場　所　：　水戸市福祉ボランティア会館　大研修室
内　容　：　呼吸レクリエーション・軽運動・絵しりとり
参加者　：　１６名（当事者２名、家族６名、支援者４名、学生４名）

呼吸を意識したレクリエーション・軽運動♪

空気をたくさん吸って、ゆっくり長く吐くと心身をリラックスさせて、ストレスを緩和する効果もあると言われています。

皆さんも、疲れたときや気持ちが落ち着かない時などは、姿勢を正して、ゆったりと深い呼吸をしてみると良いかも知れません(*^_^*)

軽運動は、ピンポン球やぬいぐるみを使って、隣の人に渡したり、ハンカチ落とし形式のゲームをして盛り上がりました♪

（レク担当：小貫）

絵しりとり♪

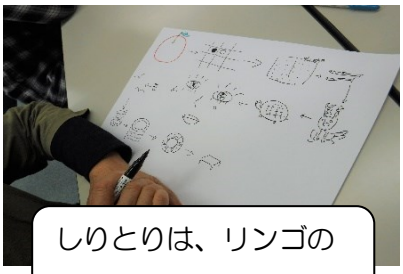
皆さん、絵を描くのはお好きですか？

絵しりとりは、言葉ではなく、絵を描いて繋いでいくしりとりです。前の人は何を描いたのかな･･･言葉には浮かぶけれど、絵を描くとなると難しい･･･これなら描けそう！

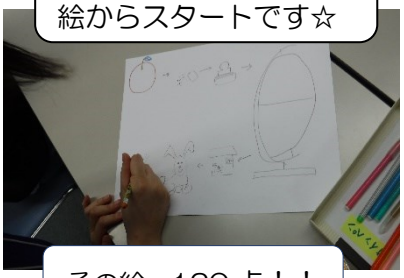
絵しりとりの前に呼吸レクで体にたくさん酸素を取り入れたので、脳も活発に働きます♪

グループ内でヒントを出し合ったり、フォローしたり、絵に点数をつけて笑い合ったり(*^_^*)

絵しりとりは、水戸メディカルカレッジの言語聴覚療法学科の学生さん４名が進行してくれました。ありがとうございます。とっても楽しかったです！



しりとりは、リンゴの絵からスタートです☆



その絵、120 点！！

報告者：弓家）

県南の広場

第１回県南集会　「カラオケとおしゃべり会」

５月１８日（土）　今年度第１回目の県南集会を行いました。

時期的に、いつも支援をお願いしている方たちもお忙しいのではないかということで、今回は、自分たちでできることをやってみようということになりました。そこで当事者の方たちからもかねてから要望があったカラオケをやることにしました。

参加者は、当事者５名、家族９名　計１４名でした。今回初めての参加という人も多く、初めは恥ずかしがったり、家族のそばを離れるのをためらう様子も見られました。名前も知らない人がいたり、支援をしてくださる方たちもいない中で、ぎごちないスタートも当然のことです。何を歌うか迷ったりの様子も見られました。でも、１曲２曲と歌がかかり始めると、誰からともなく一緒に歌いだし、それとなくマイクを譲り合う姿も見られるようになりました。「絶対に歌わない！」と拒んでいた人が、いつの間にかマイクを片手に大きな笑顔で熱唱をしていたことも、うれしい驚きでした。曲はアニメソングあり、映画の主題歌ありにぎやかです。

当事者の人たちが一気に楽しい場になったのはもちろんですが、家族の方たちも負けてはいません。こちらは、久しぶりのおしゃべりに一気に花が咲いたという感じでしょうか。日ごろの生活の話題、将来の老後の話、おいしい漬物のつけ方まで、お母さんたちの話題も尽きませんでした。そのうち歌もということになって、少し前のちょっと若かったころの歌を一緒に何曲か歌えたことも楽しかったです。

後日、何人か感想をいただきましたので一部紹介いたします。

【 当事者の方から 】

- 楽しかった。
- 楽しすぎて歌を一人で歌いすぎたかなと反省しました。
- 支援者の人がいなくてさびしかったけど、たまには良いかもしれない。
- またやりたい。次はいつですか？

【家族の方から】

- 親子が別々で楽しめて良かった。
- 日ごろゆっくり話すことができないので、たまにこのような機会があるとよいと思う。ストレスが少し解消できました。
- いろいろ相談がゆっくりできて良かった。
- 子供たちの楽しそうに歌う姿を見られてよかった。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後にみんなで選んだ歌を歌って終了となりました。選んだ歌は「栄光への架け橋」と「３６５日の紙飛行機」でした。みんなで歌っていると、その歌の歌詞はまるでわたしたちにエールを送ってくれているかのようで、そういう曲を選んでくれたこともうれしく思えました。時間が過ぎてもロビーでおしゃべりするほど、本当に楽しいひとときを過ごすことができました。

朝の空を見上げて
今日という一日が
笑顔でいられるように
そっとお願いした

時には雨も降って
涙もあふれるけど
思い通りにならない日は
明日がんばろう

ずっと見てる夢は
私がもう一人いて
やりたいこと好きなように
自由にできること

人生は紙飛行機
願い載せて飛んでいくよ
風の中を力の限り
ただ進むだけ
その距離を競うより
どう飛んだとか
どこを飛んだのか
それが一番大切なんだ
さあ　心のままに
３６５日

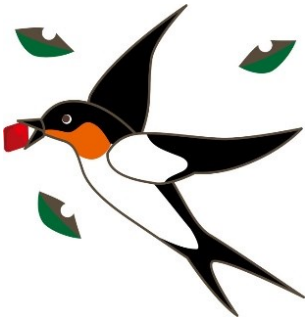
神栖の広場

家族会に出会えて　　古澤和美

夫が転落事故によって高次脳機能障害になり、２年半が過ぎようとしています。

高次脳機能障害、まだ耳に新しく世間の人には理解してもらうことが難しい障害でした。夫は身体的に目立った障害は無く見た目普通、会話も毎度同じ話ばかりをしているとは初対面の人には分かってもらえないのです。しかし、高次の脳を患ってしまっているので、度々理解不能な事をしてしまいます。世間の人は、私も有るわよそんな事と慰めてはくれるのですが、頻度が違う、程度が違うと言っても分かってはもらえません。病院でも然り、福祉課でも然り。入院していた病院においては、高次脳機能障害の器質性精神障害の症状だとは思われず、認知症とか精神疾患の括りにされていました。実際夫は、アルツハイマーの薬と向精神薬の過剰投与により睡眠障害、じっとしている事が出来なくなるアカシジアの副作用に苦しみました。退院した後も薬が抜けるまで暫くの時間を要しました。福祉課の調査員も見た目重視で理解していないようでした。

このような状態で、何をどうすれば分かってもらえるか思案にあぐねている時期に、家族会、高次脳機能障害支援センターの方々に出会えました。私は今までの経緯と理不尽な扱いを受けたこと、理解してもらえないもどかしさ、不安と焦り等、堰を切ったように話しました。それらを温かく静かに頷き耳を傾けてくださった家族会の皆様。暗闇に光が差し込むように、次第に心が軽くなっていきました。



どこから何をどうすれば分かってもらえるかの初歩の初歩さえも分からない私にマニュアルには無い体験者だからこそのアドバイスをしてくださいました。理解してもらえないという事よりも理解してもらう為にはつぶさに障害を書き出す。小さい事、今は表れなくなった障害もメモに取っておく事が大事だという事。又は、家族から見てのできる事、出来ない事の判断では、援助なしの一人暮らしを想定してできるかできないかの判断をしていくという事。これらのアドバイスは、その後とても役に立ち、医師、セラピスト、ケアーステーションのスタッフに細かく説明することが出来る様になり、更により深く理解して頂けております。

家族会に参加して一年になりますが、今でも貴重な体験談から学ぶことも多く、とても感謝しております。まだまだ家族会の皆様には甘えてしまっていますが、これからもどうぞよろしくお願いします。

※　今回は「神栖集会の報告」は、お休みします。

頑張ってる人 ⑧

◎ 明るく元気なお嬢さん

水戸市元吉田町　飛田　更紗さん

更紗さんは、中学２年生の時に「抗 NMDA 受容体脳炎」という珍しい病気になり、長い闘病生活を送りました。その後、病気は回復しましたが、歩けるようになることを目標に、現在もお母様との二人三脚でリハビリに励んでいるそうです。お二人の様子は母子というより姉妹のようでした。更紗さんは、とても明るく素敵なお嬢さんでした。

☆更紗さんの１週間の過ごし方をお聞きしました

＜月曜日＞

社会福祉協議会「つどい」で、過ごしてきます。午前中は主に「パソコン」の練習をします。更紗さんの得意なものなので、とても楽しいそうです。午後は通所している皆さんと「吹き矢」や「ボッチャ」などのスポーツをして楽しみます。

＜火曜日＞

水戸市の北水会病院でリハビリをします。（月２回）理学療法では、最近廊下を歩く練習が始まりました。作業療法では算数の「足し算引き算」や国語の「漢字」などの練習をします。

＜水曜日＞

ひたちなか市の事業所から訪問リハビリのサービスを受けています。取材に伺ったときは歩行訓練の真っ最中でした。菊池さんという若い ST さんと友達同士のような感じで訓練をしていました。始まったばかりの昨年秋は、1mくらいしか歩けず、10秒も立っていられませんでした。それから半年間、立つ練習をメインに全身筋肉を作ってきました。今では休みながらではありますが、30mくらい歩けるようになりました。前より疲れなくなったそうです。

＜木曜日＞

県庁近くの「バイリンガルキッズ」という英会話教室に通っています。イギリス人の「トム」という男の先生が担当です。病気になる前から通っていたので、５年目くらいになります。「トム」のレッスンはとても楽しいそうです。英語が上手になって、世界旅行に行くのが夢だそうです。

＜金曜日＞

月に１回、母子で旭村まで「筋膜マッサージ」に通っています。とても気持ちが良いそうです。

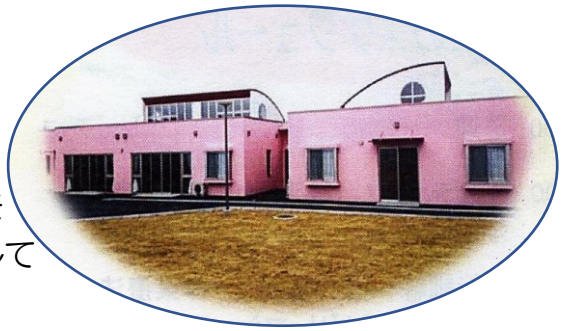
＜土・日曜日＞

お母さんと二人でのんびりと過ごします。時々、甥っ子さんや姪っ子さんが遊びに来ます

自立訓練（機能訓練）サービス事業所訪問 ⑧

社会福祉法人　籾山会
もみやまリハビリテーションセンター

住所　鉾田市籾山４９７
TEL　0291-37-3850
※既存の介護老人保健施設の一部を自立訓練（機能訓練）事業所として使用しています。



身体的な障害をもちながら、地域で生活をされている方が対象になります。形態としては、自立訓練（機能訓練）と就労継続支援Ｂ型の訓練事業を提供する「多機能型事業所」です。定員はそれぞれ 10 名ずつ、計 20 名になります。

通所している方々は、20 代から 50 代の方々で、取材の日も、明るく広々としたリハビリ室で一生懸命リハビリに励んでおられました。自分の目指している姿を想定し、個別の目標を設定します。（その日の体調に応じて内容は変更します。）リハビリの評価はＰＴの方がするそうです。

就労継続支援Ｂ型の訓練事業は、昨年の 11 月に開始しました。作業は、施設内の清掃や老人保健施設に入所されている方々の洗濯などが主な内容になります。月ごとの作業実績や作業評価によって、工賃が支払われます。

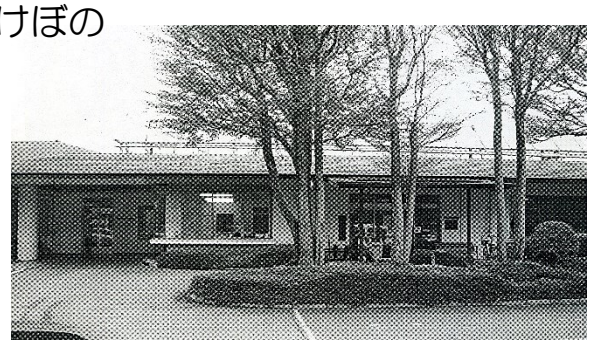
サービス管理責任者の大根田さんにお話を伺いました。「高次脳機能障害で通所されている方などは社会復帰を目指す方もおられます。そのような方には、就労のサポートが大切になります。できるだけ顔を合わせて、就労先につなげることが大事なので、鹿島市にある（**かしま障害者就業・生活支援センターまつぼっくり**）さんとの連携を密にするよう心がけています。」とのことでした。

自立訓練（機能訓練）サービス事業所訪問 ⑨

取手市立障害者福祉センターあけぼの

住所　取手市寺田 4723

Tel　0297-74-5157



「あけぼの」は、常総線の「新取手駅」から徒歩５分程度の閑静な住宅街にありました。緑に囲まれた静かな地域です。

隣には、老人福祉センターが併設されており、発表会等の行事を通して交流も図られていました。

市立の事業所なので、利用できるのは市民に限られています。理学療法士や作業療法士の方が支援してくださる機能訓練は週に １日です。その外の日は支援員の方が計画に基づき実施しています。

サービス管理責任者の石井千晶さんにお話を伺いました。

「現在は３１名の方が通所しています。うち、高次脳機能障害の方は ４ 名だそうです。何に参加するかは、自分で選択をし、それによって来所する日が決まってきますが、興味のあるものなので、とても生き生きと活動しています。」とのことでした。

私たちが訪問した日は、３ 人の女性の方がキーボードの練習をしていました。６月に隣の施設で行われる「あじさいコンサート」に向けての練習だそうです。先生はじめ皆さんの楽しそうな姿が印象的でした。

芝本　礼さんのブログから

＊＊＊＊＊

「ふたりの息子」

お子さんを亡くした親御さんが「あの子と今も毎日、話しているんですよ。あの子は私の中で生きているんです。」というようなことを言われることがある。
愛する人が亡くなる。悲嘆にくれる日々。それを癒すのは時間。やがて亡くなった人は愛する人の心に蘇ってくる。そうなるともう永遠の命を授かったのと同じだ（と想像する。私はそれを経験していない）寂しさから立ち直るというのはそういうことなのだろう。

しかし、そうした言葉を口にできない人たちがいる。高次脳機能障害。事故や病気で脳を損傷したことによりさまざまな症状が現れる。記憶の保持ができず、トンチンカンな振る舞いをするようになることもある。人格の変容はさまざまだ。まるっきり別人としか思えなくなる人もいる。その人らしさが消える。その人になかったものが現れる。障害をもつ以前のその人はこの世にいなくなったのだろうか。

私の仲間である、高次脳機能障害の当事者の妻や母親のことば。「明らかに夫として頼りにしたり求めたりするものがなくなりました。私の中で夫というパートナーは存在しなくなりました。以前の彼を今の彼に重ねることもなくなりました。今ここにいる人を家族の中の大事な人として思っています」「今の息子を愛しています。奇跡が起こって障害前の彼に戻ったら、昔の息子が障害をもち別人になってしまった時の喪失感と同じように、今度は今の息子がいなくなったという喪失感に襲われるような気がします。」

交通事故で高次脳機能障害をもった息子さんをその後、亡くした人がいる。「息子をふたり亡くしたと思っています。受傷前の彼と受傷後の彼のしぐさや表情を思い出します。それは別々のふたりです。」

以前の存在が消えた悲しみを「さよならを言わない別れ」「儀式のない別れ」と言った人がいる。割り切れない思いの中で新しい日常が始まり、月日が経過する。元に戻ることはないことを知る中で新しい人への慈しみが育っていく。しかし、お子さんを亡くした親御さんが、「今もあの子は生きている」と日常にあの子を取り戻したように、高次脳機能障害の家族を持つ人たちは、自分の胸の内に確かに存在している、しかし、現実にはいなくなってしまったその人を取り戻せるのだろうか。「昔を懐かしんでばかりいないで、今、目の前の人のことを考えるべき」というアドバイスにすっと口をつぐむ。体験したことのない人は分かるはずがないのだと思う。

高次脳機能障害について関心を持つ人が増えてきた。難しいことではあるが、支援に携わる人たちにこういうことを伝える必要があると思うようになった。

＊＊＊

【上の文章は、「サークルエコー」代表の田辺和子さんが、2004 年に雑誌『ノーマライゼーション』に寄稿された「1000 字提言」の文章です。】

お知らせ

《 《 会員・賛助会員の募集！ 》 》

「高次脳機能障害友の会・いばらき」では、広く会員を募集しております。ご希望の方、もう少し詳しくお知りになりたい方はどうぞお気軽にご連絡ください。また、私たちの活動を支援してくださる賛助会員も会わせて募集しております。

会費は、会員（年 3,000 円）賛助会員（年 2,000 円）となっております。

どうぞよろしくお願いいたします。

連絡先：滝 沢 静 江　　TEL：090-2647-3482

《 《 あなたも表紙を飾ってみませんか！ 》 》

広報の係では、表紙を飾る作品や、「がんばってる人」で取材させていただける方を募っています。また、そのような作品や当事者の方をご紹介いただける方がおられましたら、**石﨑（☎090-4925-0177）**まで、ご連絡ください。

できるだけ多くの会員の方が登場できる広報誌にしたいと思っておりますのでご協力、よろしくお願いします。

編集後記

カラオケの集会に参加しました。今迄に何度も開催されていましたが、初めての参加でした。最初は皆、様子をうかがいながらモジモジしていましたが、「栄光の架け橋」の合唱で気持ちが緩んだのか、次々と曲の予約を入れ、自分の番が待ちきれないという感じになっていきました。笑顔があふれ、とても生き生きとしていました。

しかし、日常の生活空間に、彼や彼女らがこのような表情を思い切り出せる空間がどれだけあるのだろうか・・・と考えると、ちょっと切なくなりました。

私たち家族会は、このような機会を自分たちで作っていくとともに、社会にもアピールしていく必要があると、つくづく感じました。